

ハンセン病と 社会福祉

新型コロナウイルス感染症の流行当初は、未知なる病への恐怖が社会全体を覆っていた。また、国や地方自治体では感染が拡大するたびに緊急事態宣言が発令され、行動制限が行われていた。そうしたなかで、新型コロナウイルスの対応にあたる医療従事者やその家族、感染者に対する差別的な言動が生じることとなった。

病への恐怖や忌避から偏見や差別が生まれた歴史は、かつて国による強制隔離が行われたハンセン病にもみられる。かつてのハンセン病患者は、強制隔離政策により、家族や地域から引き離され、療養所に強制収容された。さらに、ハンセン病患者を県からなくそうとする「無らい県運動」が、官民一体となり行われるなど、患者とその家族の暮らしは変容を余儀なくされ、周囲からのまなざしや差別的な言動はかれらを追いつめることにもなった。

現在の新型コロナウイルス感染症と、かつてのハンセン病の間には、疾患の性質も、それぞれの時代背景にも、大きな違いがある。しかし、病をめぐる国の対策、社会の反応、暮らしのなかで起きうる偏見・差別に対して、社会福祉実践、社会福祉研究に携わる人々はアクションを起こし、変革につなげる責務があるのではないだろうか。

どのような状況にあろうとも、人は生まれながらに人権を有している。一人ひとりの尊厳を傷つけることなく、差別や偏見に立ち向かう社会のあり方、そのような社会を実現するうえでの社会福祉をめぐる課題について、今こそ、ハンセン病の歴史から学びたい。



どなたでもご参加いただけます

参加費
無料

要約筆記あり

要約筆記・手話通訳が必要な方は、
2023年3月10日(金)までに
下記問い合わせ先までご連絡ください。

当日受付でもご参加いただけますが、
資料配布の都合上、事前申し込みにご協力をお願いいたします。

日時

2023年

4月22日(土)

13:00~16:30(12:30受付開始)

会場

愛知県産業労働センター
ウイंकあいち 901会議室

(名古屋市東区名駅4丁目4-38、「名古屋」駅徒歩5分)

基調講演
(1時間)

ハンセン病と社会福祉

新田 さやか さん【長野大学社会福祉学部 准教授】



DVD上映
(35分)

「今、伝えたいこと-愛知県出身ハンセン病療養所入所者の証言記録」(愛知県・愛知県藤楓協会制作)

パネル
ディスカッション
(1時間半)

- 【パネリスト】 ●「ハンセン病療養所における入所者の営みと声からいま何を学ぶことができるか」
坂田勝彦さん(国立大学法人群馬大学 情報学部 教授)
●「ハンセン病回復者、語り部機能の継承について-長島愛生園歴史館の取組から-」
田村朋久さん(長島愛生園歴史館 主任学芸員)

【コーディネーター】 新田さやかさん(長野大学社会福祉学部 准教授)

申込方法

右のQRコードまたは下のURLにアクセスし、
申込フォームでお申し込みください。

4月8日(土)
締め切り

申込フォームURL

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSf70tDeSPdgWQm1zWZeM6F4V3row-Awbmpiqz4NJaVA8zHyfQ/viewform?vc=0&c=0&w=1&flr=0>



問合せ先

日本社会福祉学会中部地域ブロック部会
担当理事・谷口由希子
(名古屋市立大学大学院)

〒467-8501 名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1
e-mail:tyukiko@hum.nagoya-cu.ac.jp

本シンポジウムは、日本社会福祉学会中部地域ブロック部会春の研究例会の一環として開催するものです。午前中には院生・若手研究者のための勉強会もあり、会員以外の方も参加可能です。詳細は一般社団法人日本社会福祉学会ウェブサイトの中部地域ブロックのページをご覧ください。